

第2章 センスメイキングの7つの特性 ③

【要約】 by 尾崎あゆ美

3. 有意味な環境をイナクトするプロセス

アイデンティティと回顧に関する議論はセンスメイキングのうちのセンス (sense) を論じてきたが、このセクションでは“メークする (making)”の活動について論じる。解釈はすでに存在する実体にいかにして対処するかを説明するものであるのに対し、センスメイキングはいかにして実体がそこに存在するにいたったかを説明するものである、という Thomas 等の主張を引用した時、また、行為がセンスメイキングの先行条件であることを暗示した時にメーキングに対する議論はすでに暗示されていた。

筆者は組織の生において自分の直面する環境の一部を自分が生み出しているという事実を強調するために、イナクトメントという言葉を用いる。これは法律制定者も経営者も類似して、権威ある行為を通してリアリティーを構築していることをこの言葉が示しているからである。人が法律を制定 (enact) する時、彼らは未定義の空間、時間や行為を取り上げ、境界線を引き、カテゴリーを確立し、以前には存在しなかった環境の新しい面を創り出すラベルをはりつける。例として通話回数に関するミシガン州の法律が挙げられている。400 回目の通話以降通話一回ごとに料金を課す法律を公布するまで、399、400、401 という数字には何の意味もなかったが、法律公布後 400 回目の通話は実体的な障害物のように際立ち、目に見えるシンボリックなものとした。法律制定者が有権者に対して制約をイナクトしたのである。他に筆者が挙げたどのイナクトメントのケースも、人が自らの環境を創造し、次にその環境が彼らの行為を制約したことを示している。

例に挙げたケースにおいて、先の当事者たちから独立し、かつその外部に存在するような、特定で単一の、固定された何らかの環境が存在するわけではない。それぞれのケースにおいて、人びとはまさに彼ら自身が環境の一部なのである。彼らは行為し、そして行為する中で、自分たちの直面する制約や機会となる素材を創り出している。受動的な人間の前に、自らが創り出し自らの行為を制約するような環境は置かれない。そのような環境を創り出せるのは能動的な人間だけである (翻訳版よりも原文の意を参考)。組織にいる人たちは“その環境 (the environment)”という言葉の中立的な響きのせいで、あまりにこの事実を忘れてしまっている。“その”という言葉が単数の固定されたものを思い起こさせ、“環境”という言葉はこの何かしら単数の固定されたものが個人と関わりがないように感じさせるからである。

筆者は本書で一貫して、行為がセンスメイキングにとって決定的に重要であると仮定しており、その際に Follett (1924) の著作を引用している。Follett の思想の中核は、人は自らの活動の結果として刺激を受けるというアイディアであり、それはイナクトメントという言葉が暗示している。Follett によると、言葉の最も正確な意味において、私たちの命令

に環境が応えるとは言えず、有機体が自らを環境に適応させるともいえない。どちらも大きな真実のほんの一部を言っているに過ぎないからである。農民が木を育てる例では、その木は農民が考えたり計画を立てたり働いたりするようにさせるが、逆に農民も木に実をつけさせるようにする。それは両者にとって解放プロセスであり、創造プロセスである。

こういったイナクトメントのメタファーは人為的淘汰の一例であり、イナクトメントや人為的淘汰のアイデアは、相互依存活動やプロセスそれに連続的変化へ私たちの注意を向けさせる。同時に、刺激 - 反応という分析方法に潜む畏に対する用心も呼び起こす。Follett によれば、個人の活動はほとんどの場合、個人の活動自体が個人の活動の原因となる状況を生み出すのに与っている。つまり、行動とは“主体”と“客体”そのものを関連付けるのではなく、2つの活動を関連づけることであり、活動の出会い (meeting) と相互浸透 (interpenetrating)こそ行動プロセスにおいて大事であると認識するべきである。生理学と心理学から考えるに、反応の本質の一部分を占めるのはいわゆる反応を引き起こした活動の中で起きた変化である。私たちは決して刺激する刺激や反応を捉えることはできないのである。

センスメイキングの最中に生じている進行中の相互限定 (codetermination) を銘記するために、私たちが普段どのようにプロセスを描写しているのかを筆者は検討している。プロセスの結果など存在せず、ただプロセスの中の瞬間が存在するだけなのだ、という Follett の考えを筆者は言い換えて、思想や原因 - 結果、刺激 - 反応、主体 - 客体とは、プロセスの中の瞬間についての記述にすぎないと述べている。Follett によると“結果”よりむしろ“関係づけ”について述べるべきであり、私たちが一定の行為を行う時、その行為に向けられていた思考は変化し、その変化が活動を変える。行為の最中や行為の後、はたまた行為を予測するだけでも変化は生じる。そしてその変化がどこから生じたかを見つけないと思者はいない。“変化への抵抗”に関しては、抵抗として論じるよりも環境の活動と向き合うこととして論じるべきであると述べている。この定義は社会科学に変革をもたらし、利害の対立ではなく利害の向き合いが問題となる。向き合うことは闘争を意味しないため、差違に折り合いをつける方法として統合 (integrating) の可能性が残される。

これら Follett の著作の引用は行為を回顧と、そしてセンスメイキングと解釈とを結びつける。人々は自らの環境を創造するが、その環境もまた人々を創造する。そのプロセスの瞬間と結果を凍結して把握しようとしてしまう時、センスメイキングを研究する際のプレーキが見えてくる。それは、「存在論上のふらつき (Ontological oscillation)」である。Burrell and Morgan (1979) の批判によると、解釈学や現象学、シンボリック相互作用論の理論家は主観主義者のスタンスを強調することが多いにも拘わらず、経験論的なコンテキストで彼らのアイデアを操作化しようとする時は实在論的な形式の存在論に密かに身を委ねてしまうことが多い。組織の生の一見堅固で具体的かつ実体的な面が実は主観的な構築物に依存していることを明らかにしようとする際に、主観的な構築物から独立して存在する諸々の制約や客体を措定する实在論者の仮定を持ちこんでいることを批判しているのだ。

しかし筆者は **Burrell and Morgan** の非難を正当とは認めておらず、センスメイキングを研究する人は存在論上ふらつくものだと主張している。格別存在論云々を考えたことのない日常生活を生きている人々の行為をセンスメイキング研究者が理解しようとする時、そのふらつきが理解を促してくれるからである。人が多様なアイデンティティを持ち、多元的なリアリティーに対処しているのであれば、存在論的に純粹主義者である必要はない。むしろ純粹主義者ならばそのセンスメイキング能力は制限されてしまう。

イナクトメントという概念には、囲い込み (**bracketing**) と区切り (**punctuating**) を強調する点で実在論に触れる部分がある。人々は純粹持続の流れに分け目を入れ、分かれた部分にカテゴリーを押し付ける。人々はあたかも発見されるべき何かがそこにあるかのように、実在論者のように行為するが、彼らは内なる唯名論者が区切るに値する節目を“発見する”ためにア・プリオリな確信や予期を用いることを忘れている。**Czarniawska-Joerges (1992)** の言うところの、認知的囲い込みである。しかしイナクトメントという概念には、客体や客観性よりも主体や主観性の方が勝っているように見える活動も含まれる。囲い込みと区切りは、その人の直面するその他すべての活動を形成、修正し、実質を付加することができる。センスメイキングはセンスするための対象や、構造化の構造を創り出すプロセスであるということがイナクトメントにおいて最も明らかになる。

社会的に創造された世界は、行為や志向性を制約する。社会的構築が物事のやり方の制度になり継承される為、センスメイキングのアイディアが制度派理論に結びつく。**Porac** 等によるホーイック・コミュニティの研究は、イナクトメントは世界の中の概念図式ではなく、世界の中の行為であると示している。ホーイックの人々は、自らのホーイック精神をイナクトする環境をイナクトする。人は自分自身の意図を発見するのである。

イナクトメントという概念を論じる際には 2 つ注意点があり、第一に、創造するといっても行為によってなされるものばかりを考えてはいけないということである。**Blumer (1969)** によると、ある行為のコースは開始されたり停止されたりする他にも様々な結果がある。これらは創造には至らないが、意味を生み出しうる。行為は目に見える結果は生み出さずとも、意味に影響を及ぼし得るため、行為を刺激への単なる反応や観察可能な行動、目標達成行動と同一視しないよう注意すべきである。もし同一視すると、行為が意味を創り出す微妙な様を見逃してしまう。

第二の注意点は、デカルト的不安にとらわれてはいけないということである。これに関しては、脱構築主義の破壊的な面を引き合いにだして考える。それはセンスメイキングを始めさせるのに必要な信頼や確信を破壊する。問題は信じるか信じないかであり、信頼がセンスメイキングの媒介となるのである。